
ささのは。

物集日雀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ささのは。

【Nコード】

N6733B

【作者名】

物集日雀

【あらすじ】

とある中学野球部の、超個性派三年生が迎える最後の一年間。二年生が丸ごと居ない、理由有り野球部のお話。

春 第一話

春の空だ。

若い緑にも、咲き誇る花の桜色にも、調和して深い春の空。
こんな日は、

「ボール磨き日和だったか、主将」

「手伝え」

土のグラウンドが広がり、ずっと向こうに古びた四階建ての校舎と
体育館。

それらを取り囲む、幾十本もの桜の木。
今、満開を迎えた。

ここは公立中学校「市立辰川中学校^{たつかわ}」。
生徒数はそれなり、名物は桜の木と、そこそこ大きい図書室。

新学期から一週間。

新生も先輩達も、おまけに顧問の先生達まで心浮き立たせてしま
う理由は、

「体験入部」であった。

大体音楽室や講堂への行き道、通らない方がよい教室の前、どの先
生がツラか、独身か、
わかってきた新生が活動を開始する時期である。

「こんな隅っこで地味にボール磨いてる俺が主将だなんて、誰も思わねえ」

「まあ、俺はグラウンドにベース敷いて来たし。俺にしちゃあ上等だろ」

「近藤にしては、な」

近藤と呼ばれた三年生が、グラウンドの向かいを指差した。

「だってアレ、柳瀬なんか新入生ナンパしてるぜ。ホラ」

そこには二人と同じユニフォームを着た三年生一人を中心に、小さく人だけりが出来ていた。

「あ、その体格良さそうな少年！ストップ！うん、そう、君。野球部入らん？」

私野球部の柳瀬やなんけどなー、今三年生が4人だけやねん、頑張れば即レギュラーやで！

え？二年生？あーまあそれは入部したら教えたる。…何？バスケット部？

やめときつて。あんなデカイ球投げるもんやないで！…あ、そこ

の背高い少年ストップ！」

ただ通りかかっただけの一年生が、男女次々足止めを喰らっている。体育館の窓からバスケット部とバレー部の部員が面白げに眺めている。

「結構集まってんじゃん。さすが柳瀬」

「関西弁が珍しいだけじゃないのか」

やっこのこと、ボールを磨き終わった主将が冷淡に返しながら立った。

ちなみに主将は高橋弘樹、横にいるのは近藤良平。

人だかりを作っているのは柳瀬周。そして、

「もう一人のサボリ魔は何処にいるんだ？」

「山崎なら俺とベース敷いてからサッカー部邪魔しに行った」

「そーか。まあお前ら三人合わせて仕事しないしな。別に変わらない」

「ヒーロー！新人部員、とりあえず5人捕まえてきたでー！」

いつの間にか柳瀬が人だかりを抜け、走り寄ってきた。

後ろから新入部員候補5人が必死に追いかけてきた。

柳瀬が身長165cmと少し小柄だが、新入生は身長はしっかり高く、体格も良く見えた。

「体格良さ気なの連れてきてんけど」

「おー、よくやった！とりあえず野球出来るな」

「待て待て、本人から話聞いてないだろ。勝手に決めるんじゃない。柳瀬、山崎呼んできてくれ。練習始めるから」

「何処？」

「サッカー部、だな？近藤」

「おう、多分な」

それから少しした後、どの部も練習を開始した。体験入部一日目は、とつても部活日和であり、どの部も活気付いている。

野球部は少しだけ人数が増えていた。（柳瀬に捕まらなかった新入生が来た）

「二年生がおらへん分、ちゃんとした一年が要るやろ？
だから頑張つて集めとつただけやねん。
別に迷惑なつてなかつたつて。なあ？」

同意を求められた一年生が困惑した表情で主将を見、やっこのこと
で苦笑いを作つて返した。

「それはわかつた。だがな、お前の行動は新入生を驚かせているか
らな。」

少し慎め。というか監督の言う事は素直に聞け」

「聞いてるけど覚えられん」

「わかつたもういい。お前は次の面談楽しみにしてろ」

「監督、練習を始めないと時間がありません」

堪りかねた主将が言った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6733b/>

ささのは。

2010年10月21日21時15分発行